

「介護キャリア段位制度」を活用した 介護のスキルアップと人材育成

介護現場では、人材の多様化が進むなか、職員によってケアのレベルに差があることが課題の一つになっています。しかし、介護のスキルを学んでもらおうとしても、教える職員によって、教え方や内容がバラバラ…。人材育成に苦勞している施設は少なくありません。「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」(以下、介護キャリア段位制度)を活用して、人材育成をうまく行っている施設の取り組みを紹介します。

社会医療法人黎明会介護老人保健施設 和佐の里(以下、和佐の里)は、和歌山県日高川町に1997年、入所定員100名で開設しました。利用者の運動機能を考慮し、建物がすべて平屋造りになっていることが大きな特徴です。美しい庭園に囲まれた建物は、それぞれの部屋から自由に出入りでき、開放感にあふれています。

「和佐の里」での取り組み

和佐の里では、①職員の介護スキルの向上、②新人を中心とする職員の育成に力を入れています。その際にとっても効果的なのが、2013年から取り組んでいる「介護キャリア段位制度」(図)です。具体的な取り組みの内容や方法、それによってどう現場が変わったのかを紹介します。

職員の介護スキルの向上
介護職が利用者の生活を支えるためには、介護技術のスキルを高めることが欠かせません。しかし、多くの介護現場では体系

的に介護技術を学ぶしくみが整っていないことが課題となっています。その結果、先輩職員が自分の経験をもとに介護技術を教える、しかも教える先輩職員によってその内容が違ふ、といった状況があり、介護職は何を基準に介護技術を学べばよいか不明確になっていきました。和佐の里も、以前は同じような状況でしたが、「介護キャリア段位制度」の導入によって、共通の指標で介護技術を学べるようになり、職員のスキルが高まった」とアセッサー[※]の野田明希さん(介護職)は話します。介護キャリア段位制度では、「基本介護技術の評価」「利用者視点での評価」「地域包括ケアシステム&リーダーシップ」という3つの大項目から、複雑化・多様化・高度化する支援ニーズを踏まえ、た評価項目(チェック項目)が設定されています(計148項目)。

和佐の里では定期的に、すべての常勤職員がこのチェック項目を自己評価します。「最初は大変でしたが、今では当たり前のように業



和佐の里の職員の皆さん

※アセッサー：介護キャリア段位制度を用いて、職員の評価・育成を行う。職員のスキル向上を図る人材育成の推進役

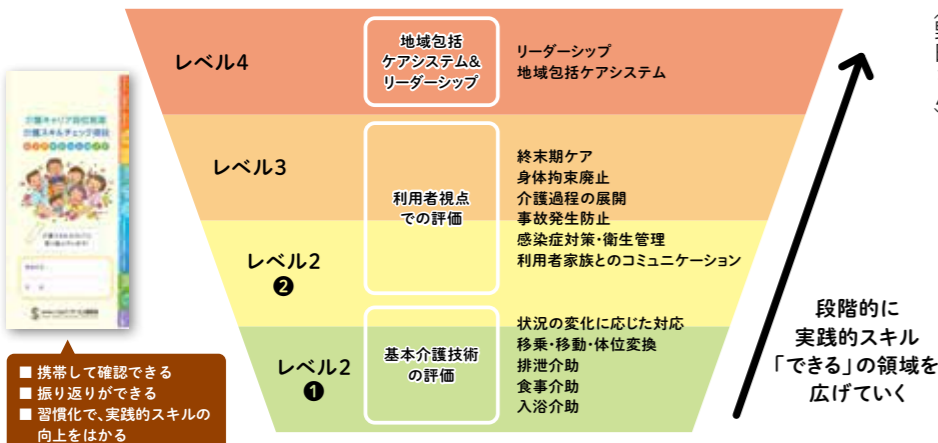
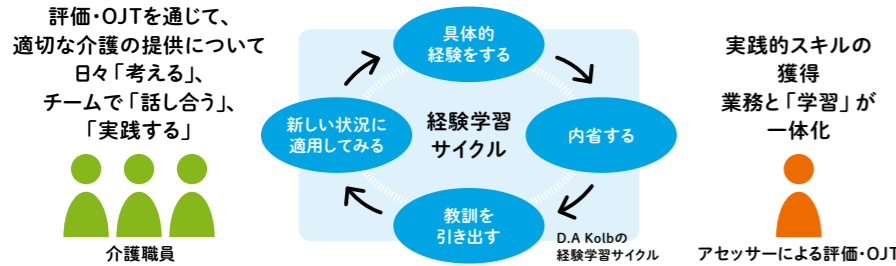
務に組み込まれていて、自らのケアを振り返るいい機会になっています(野田さん)。

新人を中心とする職員の育成
「介護キャリア段位制度は職員育成やOJTにとっても有効」と和佐の里の職員は声を揃えます。148のチェック項目は、施設側にとっては、職員がどこまでスキル

を獲得できたかを確認する共通の指標となります。和佐の里では人事考課に組み込むことで、職員の能力を適正に評価しています。「キャリア段位制度は、介護技術を『〇×(できているできていない)』で判断するので、評価が明確。介護行為が見える化・可視化ができて、現場の指導が行いやすくなりました」(野田さん)

介護プロフェッショナルキャリア段位制度の活用

- 介護キャリア段位制度は、介護職員の実践的スキル向上にむけた事業所内での効果的・効率的なOJTの仕組み作りを支援します。
- 介護キャリア段位制度の評価基準を用いた評価・OJTを通じて、介護職員の実践的スキルの向上を図り、学習のPDCAサイクルを介護職員だけでなく、事業所内に根付かせていくことを目指します。
→経験学習サイクルを作り上げる



※<https://careprofessional.org/file/ojt-guideinfo.pdf>

令和7年度 アセッサー講習 受講申し込み受付中 eラーニング期間



第1期:令和7年10月21日(火)~12月2日(火)
(確認テスト 12月4日・5日)

第2期:令和8年1月14日(水)~2月24日(火)
(確認テスト 2月26日・27日)

介護キャリア段位制度をもっと知りたい方はこちらをチェック
専用ホームページ
<https://careprofessional.org/>

問い合わせ先

一般社団法人シルバーサービス振興会

TEL 03-3862-8061 / 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-14-2 イトーピア岩本町ANNEXビル5F

現場に好循環が生まれる

このように、介護キャリア段位制度を活用することによって、職員がスキルアップやキャリアアップをしやすい環境が整っている和佐の里。職員のモチベーションも高まり、結果的に、ケアの質向上にも寄与しています。

また、「介護キャリア段位制度を用いた指導と評価で育った私が、今はリーダー(指導者)として、現場の指導・評価にあたるようになりました。継続的に取り組むことで、現場には好循環が生まれると感じます」とアセッサーの西川直輝さんは話します。まずは、介護キャリア段位制度を知ることから始めてみませんか。